



題字・鳩山威一郎

機関紙「友愛」  
発行所

(財)日本友愛青年協会

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13

松本ビル2F

TEL 03-5684-3188

FAX 03-5684-3186

発行人：川手正一郎

編集人：中川 治男

隔月1回 10日発行

購読料

年額 3,000円

# 「日中緑化交流基金植林」訪中実施

## 湖北省黄崗市武穴における 水土流失及び防風護堤林植林実施

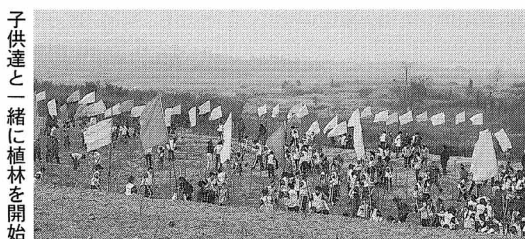
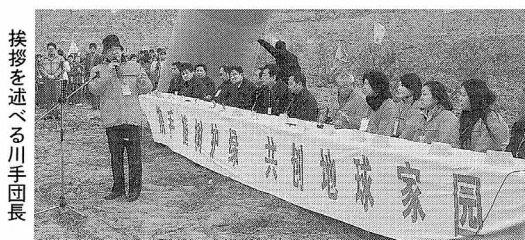
三月二日(水)五日間の予定で、日中緑化交流基金事業実施のため、友愛訪中団が出発。湖北省武穴での植林活動をはじめ、一昨年に植林を実施した長江護堤林の調査・視察などを含め、現地での事業実施、交流活動を済ませ三月六日(日)帰国した。今回の訪中は、従来同様「日中緑化交流基金」に基づく民間委託事業で、日本友愛青年協会が受託して行うもので、黄崗への訪中は通算第三回目となる。

川手正一郎氏を団長に、福田八州雄・榎麻記子・羽中田元美・町田小百合・小松純子(敬称略)の六名で結成された訪中団は、二日早朝に成田を経由、上海を経由して湖北省武穴に向かった。飛行機を乗り継ぎ、バスに数時間揺られ、同日深夜武穴のホテルに到着した。

翌朝、さらにバスに乗り、三時間の道程を経て今回植林の行われる長江畔の現場に着いた。現地では、身を切る冷たい風の吹くなか村人総出の熱烈歓迎で、小中学校生による鼓笛隊も参列し、式典が行われた。式典では、中国側関係各位から、日本友愛青年協会に対する感謝と賛辞が述べ

の疲れも忘れ、子供達と仲良く植林を続けた。

武穴での式典終了後、一昨年植林の行われた長江護堤林の視察に向かった。日差しも増し、暖かい光の降り注ぐなか、すっかり大地に根を張った木々が訪中団を迎えてくれた。直径三センチほどであった苗木は、見事に成長を遂げ、活着率



子供達と一緒に植林を開始



大きく育ったポプラの苗木



一本一本を丁寧に植える



小中学生による鼓笛隊

## 「母なる川を守る賞」 川手正一郎氏受賞

中国共青団中央全国緑化委員会・全国人民代表大会環境資源保護委員会・全国政治協同会議人口資源環境委員会より贈られる

四月二十日(水)中国農林部・国家環境保護総局・国家林業局より日本友愛青年協会に連絡があり、本協会常務理事である川手正一郎氏に対し、荣誉ある「母なる川を守る賞」が授与される旨が伝えられた。

この賞は、中国共青団中央全国緑化委員会・全国人民代表大会環境資源保護委員会・全国政治協同会議人口資源環境委員会が選んだ、生態・環境保護に尽力した社会人に対して贈られるもので、後に続く青少年の範となる人がその対象となる。川手氏の長年に亘る植林活動が評価されたもので、中国国内以外から選ばれるのは初めてのこと。

以下に本協会に宛てられた文書(抜粋)を紹介する。数年来中日青年交流と環境事業において、絶え間なく努力をされてきたことを高く評価します。殊に日中緑化交流基金を活用しての「母なる川を守る活動」には、特別な外交評価と生態保護の効果が現れており、大変嬉しく思います。存知のように、昨今の中日関係が少しは逆行しており、両国の協力基盤が多少衝撃



授与された表彰状、他にトロフィーとメダルが贈られた

## 友愛時評

▼長男が小学生のころ、昭和三十年代)運動会を見に行ってがっかりした記憶がある。それは、騎馬戦や徒競走など、勝負と名のつくものが全く行われなかったことだ。運動会だけではない、成績表も五段階評価とか三段階評価(優良可)が行われ、中には「オール三」や「オール良」をつける先生もあって、保護者の間にある種の混乱さえひきおこした▼これは「競争は悪」という教育思想が戦後の一時期、流行していたからだ▼このことは、中山文部科学相も同意見で、そのことをミレーンで述べたと言う。三月六日付朝日新聞に「競争は悪」の教育ニート予備生む」というタイトルで掲載されている▼確かに学校でいくらず子供達を「平等」に扱ったり、「競争」を無くしたりしてみても、社会に出れば競争ばかりだから、それから逃げ出したくなるだろう。とどのつまりは「ニートの大量生産」になると主張される中山文相の意見も傾聴に値する▼ただ問題は人間の「自由」をどう考えるかであって、競争も自由があるからこそだし「平等」も「法」のもとの競争のものであるとすれば、競争の悪もその範囲で認めなければならぬ▼自由の行きすぎも平等のもたらす悪も、私達は幾度となく見てきた。それは歴史の中で限りなく繰り返されてきたばかりでなく、現在も世界中で展開されている▼両者をつなぐ「友愛」の重要性は増すばかりである。

# 開く 理事会 評議会 第六十二回

財団法人日本友愛青年協会(鳩山安子理事長)の第六十九回理事会、及び第六十二回評議会が、三月三十日(水)午前十一時より本郷鳩山ビル六階にて開催された。当日は、鳩山安子理事長をはじめ、各理事、評議員が出席した。

会議は、理事長より開会のあいさつの後、進められた。

議題は、(一)平成十七年度事業計画案について、(二)平成十七年度の予算(案)についての二議題が取り上げられた。

平成十七年度事業計画案



については、中川事務局長よりこれまで同様の事業展開が計画されており、既に準備が進められているという報告がなされた。

また新しく、研修事業において、本協会の創立者鳩山一郎先生の足跡を学ぶために年四回程度、勉強会の開催が提案された。世界とのかかわりの深かった創立者の意志、また友愛の精神を深く学ぶ事の意義を含め、開催が承認された。

その他の事業については、ドイツ歌曲(リート)コンクールから、オーストリアの青年の受入について提案された。については次回評議会・評議員会までに計画書の提出が求められた。機関紙『友愛』について、編集の一部委託が事務局長より提案され承認された。

次に、平成十七年度の事業計画に伴う予算が提案され、全員の賛成をもって承認された。

しかし、その中身を詳らかにすれば、基本となっている思いは、若干違っているように思う。祖父鳩山一郎は、GHQによる「御仕着せ憲法」は見直すべきであるという立場から憲法改正を考えていたようだ。先のご署名原本の画像からも「平和を愛する諸外国の人々の公正さを信頼して、自国の安全と生存を保持しよう」と綴られた前文が読み取れる。この文章こそが、現行憲法は日本が独自に創りあげた憲法ではないと示しているといえる。しかし私は、押し付け憲法でも、具体的内容について

## 尊厳ある日本を創る(二)

本協会理事 鳩山由紀夫  
衆議院議員

### 友愛精神が

### 織り上げる新憲法

四月から、国立公文書館に保存されている貴重な資料が、インターネットを通してその一部が閲覧できるようになった。開示された資料のなかには、現行憲法の原本、いわゆる「署名原本」もある。昭和天皇の御名御璽に連なっている当時の総理大臣吉田茂氏以下が署名している。新たな日本国の始まりであった。

曾祖父、祖父、父、そして私達兄弟と、四代続いた政治家としてのDNA(遺伝子)が、「現行憲法を見直す」という力の源流であると前回に書いた。人からもそのことをよく言われる。

では、是是非非の考えであり、さらにしかしながら、憲法は真の独立国家の屋台骨である。この礎を貫くものが、自らの創意でないとするなら、遺憾なことと言わざるを得ない。

祖父一郎が、首相在任中に成し得たことは、日ソ共同宣言の締結と、その結果可能となった国際連盟への加盟であった。来年共同宣言締結五十周年を迎えるが、ソ連は既にロシアと変化したのに、日ロ間の平和条約は結ばれていないのである。祖父が病身をおしてソ連に渡ったとき、友愛青年同志会の人々の前で「領土は逃げないが人の命には

限りがある。領土返還より、抑留されている人々の全員帰国こそが、第一義である」と語ったことを、当時の同士の会の方からお聞きしている。

私はこの思いこそが、祖父の唱えた「友愛精神」であると思う。

個々が自立し、互いを認め、共に生きる、この基本的なことすら、現在の政治では行われていないように思える。国民不在、友情と智をないがしろにする政治に、大いなる憤りを感じている。この感覚こそが、受け継いでいるDNAのなせる業かもしれない。

(つづく)

## 温故知新(二)

本協会理事 鳩山邦夫  
衆議院議員

### ヒトも自然の一部

私は自然大好き人間です、というお話をしました。が、それも考えてみると妙な言い方で、本来人間は、自然の一部なので、自然と人間は切り離しては考えられない、自然と人間、人類は一体です。

それなのに、人間は「自然」を自分達とは切り離して、あたかも支配しているかのように考えています。まさに霊長類である人類、人間の「おごり」がそこに見えます。

「地球カレンダー」という考え方があります。四十六億年前の地球誕生の時期を一月一日と想定し、今日現在を大晦日と考えてみてください。海が出来たのが一月八日、原始生命体が生まれたのが二月下旬、陸上生物が現れたのは、十一月です。

さて、そこで我々人間です。ホモサピエンスが地上に現れたのはいつ頃だと思いますか？ 午後十一時三十七分です。ネアンデルタール人などは、その三十分ほど前に現れています。紀元元年つまりキリストの誕生は、五十九分四十六秒、産業革命が起きたのは五十九分五十六秒というところになります。

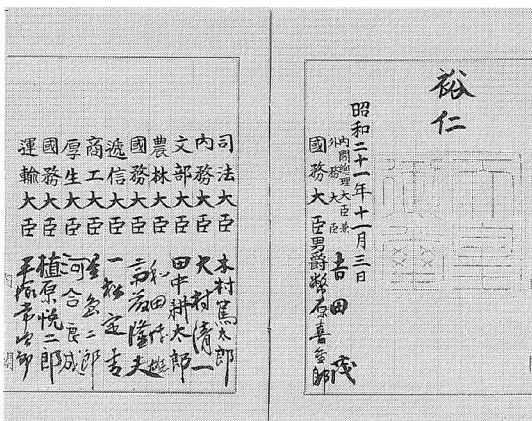
こうして地球カレンダーの考えに照らし合わせてみると、地球にとって我々人類なんて、新顔もいないくらい、それが支配者面していることは、大変な勘違い、おごりに過ぎないということが良く解かります。たった数

秒で、地球を滅亡に追いやる道をすすんでいる人類こそ、この地球上に生まれた生命体の中で、一番おろかな生命体といえるのではないのでしょうか。

地球温暖化、環境破壊、環境ホルモンの存在等など、これらはまさに「人類」が引き起こしている地球滅亡への筋書きです。「地球は誰のものか」もう一度真剣に考える必要があります。

では、「環境革命」―自然との共生をライフワークにと考える私が、いかにこの問題と取り組んでいくか、次回はそのあたりをお話しましょう。

(つづく)

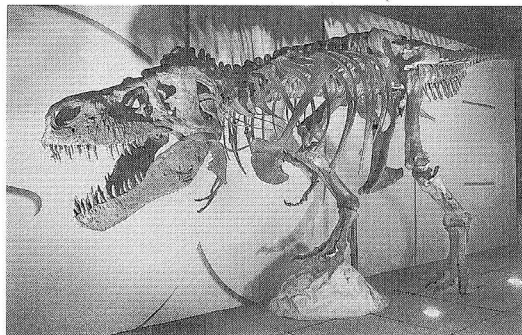


御署名原本 (一部)

独立行政法人国立公文書館 HP より転載

公文書館ホームページ <http://www.archives.go.jp>

上野の国立科学博物館で開催中の「恐竜博」には、ほぼ完全復元された有名な「スー」の骨格が展示されていて、人気を博していますが、このスー、肉食恐竜のティラノザウルスです。これらの恐竜が地球上に現れたのが何と十二月十五日くらい、そして恐竜が滅びたのは十二月二十五日クリスマス前後です。十日間存在し得たということは、約一億年くらいでしょうか。



© 2005 The Field Museum

スーの全身複製骨格 (フィールド博物館蔵)  
「恐竜博2005」

国立科学博物館(東京・上野)で

7月3日まで開催

写真の全体骨格(複製)の他スーの実物化石(一部)も展示されている

# 未来への遺産に光を

(二)

## 遺跡キャンペーン

高杉 信美

今から千二百年前の八世紀に、サイレンドラ王朝によって一七平方メートルの底部から、四つのテラスが地上四メートルの高さまで建造された、世界最大の石造仏教遺跡「ボロブドール」も、近くのメラビ火山の爆発により火山灰の下に埋もれ、幾世紀の間眠り続けてきた。これを発

見したのは、英国人スタンフォード・ラッセル卿だった。インドに起こった仏教だ、東漸の歴史を見ると、それはアジア全土に広がり、定着した国々には大きな記念建造物が建てられていた。仏教の行き着いた先の最南端では、ジョクジャガタ

現代に至って、この石造と木造の建造物は、まったく同じ時期に大修復がなされた。それは不思議なくらいタイミングがあっている。しかも双方とも華厳経の教えが源になっているという。昭和四十一年(一九七二)

財団法人ユネスコアジア文化センター(以後ACCUとする)設立と同時に、ボロブドール復興協力会の役員十二名が財団の理事に、一名が監事に就任し、他の役員はほとんど評議員に就任した。復興協力会は、遺跡復興完成前にその使命を終えて昭和五十七年(一九八二)に解散した。

そのころから、ユネスコも世界各国に散在する、人類共通遺産である文化遺跡が、数多く崩壊の危機にさらされ、消滅の危機に瀕していることから、その救済のための国際的キャンペーンを始めた。それに呼応して、アジア

## 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

### 合宿セミナー参加青年を募集

独立行政法人国際協力機構(JICA)が行う招へい事業に、本協会は受入れ団体の一つとして、専門分野の研修、合宿セミナー、日本文化体験などを通じ招へい青年の受入れを企画実行しています。中でも軽井沢友愛山荘で行われる「合宿セミナー」は、日本の青年と二泊三日寝食を共にし、文化交流や

評価プログラム：八月三日(水)  
帰国：八月四日(木)  
合宿セミナーへの参加希望など詳細は、友愛事務局までお問い合わせ下さい。  
併せてセミナー参加者のご推薦をお願い申し上げます。  
(財)日本友愛青年協会  
TEL:03-5684-3188 FAX:03-5684-3186  
なお、第二十三回マレーシアグループの合宿セミナーは二月上旬を予定しております。合宿セミナーへの参加要領など詳細は順次紙面にしてお知らせします。

# ヨーロッパ統合の歴史

二

## 第一次世界大戦の惨禍(と再生への試み)

東北大学法学部助教授 戸澤 英典

第一次世界大戦は「ヨーロッパの自殺」とも評される。

当初、短期の局地戦で終わるだろう、と誰もが思っていた戦いは、レマルクの小説『西部戦線異状なし』に描かれているような何時果てることも知れない悲惨な塹壕戦に陥った。機関銃や毒ガス、装甲車などの新たなテクノロジーは戦争の性格を一変させ、「古き良き時代」の騎士道精神は次第に過去の遺物と化していっ

こうして第一次大戦は、ヨーロッパ人の精神にフランス革命以来の大きな衝撃を与え、文明論の形態をとったシェンクラーの『西洋の没落』が食うように読まれた。「失われた世代」は反戦を訴え、大戦の惨禍の生々しい記憶は厭戦気分を充満させるに十分であった。

しかし、第一次大戦後の戦後処理、は多くの禍根を残すものであった。「中央

ヨーロッパの民族的な複雑さをほとんど理解していない政治家」というレッテルも貼られるウッドロー・ウィルソン米大統領の十四カ条、とりわけ「民族自決」の原則と国境線の引き直しに、大陸ヨーロッパの現実と到底即しているとは言えないものであった。それまでの有機的な社会・経済的なつながりを政治的に分断する形で、ハプスブルク帝国を解体し新興国を独立させた結果、その多くが政治・経済的に不安定な状況に陥った。

敗戦国に対して懲罰的な内容を持つヴェルサイユ条約による賠償の負担もあり、ドイツやオーストリアでは特に国内政治の緊張が高まった。こうした大陸ヨーロッパの国際・国内政治上の危機を克服する処方箋の一つと



昨年の合宿セミナー

都内プログラム：七月二十六日(火)～八月二日(火)  
合宿セミナー：七月二十九日(金)～三十一日(日)



山荘の庭で記念撮影

それからしばらくして家内がどこから、前の犬と同じような小犬をもたってきた。色も形も同じような犬なので名は「コロ」とすぐ名づけられた。コロは順調に育ったが、今度は放し飼いでどこではなく、一日中「綱かチェーン」をつけて時々運動に連れ出した。ところが私達に三日ばかりどろしても旅行しなげればならないことになった。そこで隣に住んでいたヨーロッパの時代精神によって形づくられたものだったのである。(つづく)

## ひととき

### ペットを飼うということ

何でもよいから、食べ残しは勿論コップパン一個と水だけはやってくる。よう頼んで旅行に出た。ところが帰って見ると、コロはじつと横たわっていた。コロは順調に育ったが、今度は放し飼いでどこではなく、一日中「綱かチェーン」をつけて時々運動に連れ出した。ところが私達に三日ばかりどろしても旅行しなげればならないことになった。そこで隣に住んでいたヨーロッパの時代精神によって形づくられたものだったのである。(つづく)

友愛クラブ

心の中で育つ木々

(財)日本友愛青年協会評議員 福田八州雄

で私にとって「友愛クラブ  
のこを」といわれると、  
様々な経験のなかで特筆す  
べきは何といっても「日中  
友好友愛植林訪中団」に参  
加したことです。昨今の報  
道では、反日運動が激化し  
ている中国の様子がうかが  
えますが、私の訪れた中  
国、フライング越しに見  
た中国は、私達の植えた木  
々のように健やかで、期  
待のもてるものでした。



筆者が写す

は、感激の一言です。現地

でファインダーを覗いて、感動のままシャッターを切った映像は、帰国後、新たな感激と思いつく、その時の様子、空気のおおいを蘇らせてくれます。

川手団長が受けた「環境保全爺爺」の栄誉ある称号も感動に彩を添えてくれました。

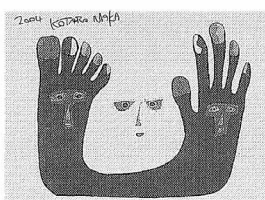
これからもこの感動を、そんな思いでファインダーを覗くことでしよう。



筆者が写す

中村小太郎展を  
銀座日動画廊にて開催

去る四月七日(十五日)  
友愛青年同志会の一員として活躍された中村小太郎氏(本名：中村勇一)が銀座日動画廊において「地中海に遊ぶ風はコバルトブルー」と題する個展を開催し、連日多くの来場者がつめか



爪を染めて踊るダットン人の女

岡本太郎氏に薫陶を得て、四年余りの助手として活躍。素朴で面白い作品の数々は、多くの人々の心を魅了し、個展は大盛況のうちに終了した。

〈プロフィール〉 中村小太郎(なかつら ことろう) 一九三七年東京・駒形生まれ。五十二年より詩、油彩

参加青年を募集

文部科学省委託事業・日独交流事業

象的であった。

十時から始まり七時間に及ぶ戦いが終了、競技委員長による成績発表の後、本

協会中川治男事務局長より表彰状、及び友愛杯が、優勝した「二葉クラブ」に授与された。十七時三十分、すべての予定を終え大会は無事終了した。

参加チーム

田原ボンバーズ(三位) 有馬バレー部 竹町アタック  
みなとクラブ 月一クラブ  
ブラビッツママ 坂本クラブ  
一葉クラブ(優勝)  
富士クラブ ポニータ  
Bクラブ 台東あじさいクラブ(準優勝)  
久松クラブ ブルース  
土筆クラブ(三位)

(順不同)

を独学。六十六年岡本太郎氏の助手として大型モニュメント制作に参加。七十四年アメリカにて個展。七十九年サンパウロにて個展。八十八年コンドーギヤリ（東京）にて個展。八十九年日動画廊（東京）にて個展。九十七年銀座三越にて個展。〇一年ギャラリ東京映像にて個展。その他作詞、訳詩、装画、舞台美術などを手がける。現在北海道余市町にアトリエを移して活躍。近著に『小さな神様』（あざらし会刊）『まだ、まだ』（求龍堂刊）がある。

中村小太郎氏のコメント  
「青年時代に友愛青年同志会の一員として、鳩山一郎先生の友愛活動に参加していた青年の一員です。当時は、苦勞の連続でしたが、現常務理事川手正一郎氏ら多くの方々に支えられ今日の自分があるのだと思います。このときの出会い、経験がこの後の私の人生の大きな原点となりました。」

銀行・サービス業・福祉関係・公務員・製造業関係  
募集人員：二十五名  
諸経費：十万円  
○日虫学生交流

趣旨：日本とドイツの学生が、共通課題のディスカッションや相互国における文化体験等を通して、今後の学生交流の発展を図る

派遣期間：平成十七年八月

三十一日、九月十三日

対象者：日本の青少年団体  
等で活躍する学生  
募集人員：二十五名  
諸経費：十万円  
詳しくは、独立行政法人国  
立オリンピック記念青少年  
総合センターホームページ  
をご覧ください。  
<http://www.nyc.go.jp>  
お申し込みは平成十七年

六月六日（月）必着までに

## 編集後記

友愛新聞五月号、今号より新しい様式で編集いたしましたがいかがでしたか？ 字を大きくし、写真も大きくいたしました。これからも皆様におわかりやすい友愛新聞をお届けできるように、頑張って参ります。よろしく願ひ致します。

（美）

## 第二十六回友愛杯争奪 家庭婦人バレーボール大会開く

# 激戦勝ち抜き

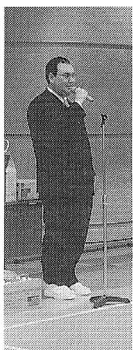
## 「葉クラブ」が連続優勝

四月二十九日(金) 中央  
区立総合スポーツセンター  
において、第二十六回友愛  
杯争奪家庭婦人バレーボー  
ル大会が開催され、激戦を  
勝ち抜いた「二葉クラブ」  
が、「台東あじさいクラブ」  
を破り昨年に続く優勝を果  
たした。

六チームが勢ぞろい闘志を  
みながらせるなか、海外出  
張中の鳩山邦夫大会委員長  
の代理として鳩山太郎参与  
（都議会議員）が大会宣言  
激戦の幕が開いた。

本大会はトーナメント方  
式のため、決勝進出チーム  
は四試合連続の戦いとなっ

家庭婦人、試合中の険しい表情が、試合を終えると優しい表情になり、その表情の変化、こぼれる笑顔が印象的。



て活躍している  
開会の挨拶をす  
る鳩山太郎参与



掛け声が飛び交う熱戦

(順不同)